

七士殉職供養塔
(高崎市片岡町/
1935年)



群馬県立女子大学群馬学センター
第44回群馬学連続シンポジウム

災民修法碑
(中之条町伊勢町・
林昌寺/1882年)



決瀆口跡
(板倉町海老瀬/1950年)



水害塔
(前橋市富士見町小沢/1947年)

自然災害伝承碑は 警告する



観音像
(嬭恋村鎌原/1982年)

〈シリーズ・群馬の災害文化I〉



カスリーン台風伝承碑
水波能売神碑
(桐生市東/1956年)



遭難碑
(安中市松井田町西野牧/
1921年)



天明地藏尊之碑
(伊勢崎市戸谷塚町/1962年)

2024.1.27(土)

13:00~16:00

- 参加費** 500円 (大学生以下無料)
- 会場** 群馬県立女子大学 講堂
- 定員** 300名 (先着順) *事前申し込みが必要です。(裏面参照)

参加特典!

本シンポジウムの記録集となる地域学ブックレット・群馬の歴史と地域遺産VOL.14『自然災害伝承碑は警告する〈シリーズ・群馬の災害文化I〉』(2024年度刊行予定)を贈呈します。
※配布方法は別途ご案内します。

お申し込み・お問い合わせ

群馬県立女子大学事務局連携推進係

〒370-1193群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1
電話: 0270-65-8511 (大学代表)
FAX: 0270-65-9538
E-mail: gunmagaku-center21@mail.gpwu.ac.jp
WEB: <https://www.gpwu.ac.jp/>



〈申し込みフォーム〉

◎講演 〈13:10~14:50〉

災害文化としての伝説 -群馬県の場合-

長野県立歴史館 特別館長 笹本 正治
信州大学 名誉教授

第一部

群馬の火山災害伝承碑

-天明三年浅間災害関連石造物の集約-

嬭恋郷土資料館 館長 関 俊明

自然災害伝承碑と風景に刻まれた群馬の歴史災害

群馬大学共同教育学部 教授 青山 雅史

◎パネルディスカッション 〈15:05~16:00〉

「災害伝承の調査・研究と公開・活用のこれから」

パネリスト 笹本 正治 関 俊明
青山 雅史

コーディネーター 群馬県立女子大学 教授 築瀬 大輔

第二部

《主催》群馬県立女子大学

《後援》玉村町 上毛新聞社 群馬テレビ FM GUNMA 群馬県地域文化研究協議会 群馬歴史民俗研究会 群馬歴史資料継承ネットワーク 〈ぐんま史料ネット〉

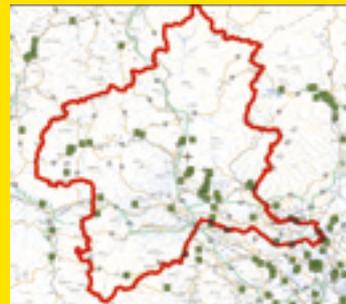
自然災害伝承碑は警告する (シリーズ・群馬の災害文化Ⅰ)

過去に大規模災害が比較的少なかった群馬では、未来においても安全だろうと楽観している県民や企業が多いと言われている。これに対して県は、群馬に災害が発生しないということではないとし、そのような安全神話を見直し、真の安心・安全の確保に目を向けるよう警鐘を鳴らしている。東日本大震災の津波被害伝承者が「伝えたいのは津波じゃなく、逃げなかった怖さだ」と訴えるように（朝日新聞デジタル・2021年2月28日）、もはや安全神話そのものが深刻な災害リスクと認識されている。

『群馬県地域防災計画』（2023年3月）は「過去の災害教訓の伝承」という観点から、歴史災害の資料の収集・整理・保存・公開に努めるよう定めているが、中でも自然災害伝承碑のもつ意味を正しく後世に伝えていくことを特記している。自然災害伝承碑とは、過去の自然災害の教訓を伝える石碑やモニュメントのことで、そのための地図記号を国土地理院が新たに制定し、2019年からウェブ地図「地理院地図」と2万5千分1地形図への掲載を進めているものである。2023年10月26日現在で、全国584市区町村・2,037基、群馬県では14市町村・48基が登録されている。

また、例えば神奈川県大和市が市史の一冊として『大和市の災害史』（2022年）を刊行したり、地元群馬では『上毛新聞』が昨年末から今年10月までに「安全神話を問う 災害事例に学ぶ」と題して10回にわたって連載したりするなど、歴史災害の記録と記憶を掘り起こし、それを災害文化として社会化しようとする取り組みが各地で活発化している。

本シンポジウムはこうした動きを注視しつつ、さらに2023年が天明三年浅間山噴火から240年、関東大震災から100年の節目に当たることから、〈シリーズ・群馬の災害文化Ⅰ〉として開催するものである。そこで、県内に保存される自然災害伝承碑に光を当て、これを地域の災害文化構築のための基礎資料のひとつに位置づけ、伝承碑の所在把握と資料化の方法（調査）、文化的価値の解明（研究）、公開・活用（普及・啓発）のあり方について議論し、群馬における災害文化構築のこれからを展望する。



登録された自然災害伝承碑の分布

第44回群馬学連続シンポジウム 登壇者プロフィール

笹本 正治 ささもと しょうじ/Shoji Sasamoto
長野県立歴史館・特別館長 信州大学名誉教授

1951年 山梨県敷島町(現甲斐市)生まれ
名古屋大学大学院博士課程前期修了
日本史 博士(歴史学)
名古屋大学助手、信州大学助教授・教授、長野県立歴史館館長を経て、2021年より現職。
著書に『土石流と水害-伝承・地名・防災-』(高志書院、2022年)、『山岳信仰伝承と景観-虚空蔵山を中心に-』(岩田書院、2022年)、『鳴動する中世-怪音と地鳴りの中世史-』(吉川弘文館、2020年)、『戦国時代は何を残したか-民衆の平和・神仏への思い・自然開発-』(信濃毎日新聞社、2020年)など。
山梨県文化財保護審議会会長、南信州民俗芸能継承推進協議会アドバイザーなど。

関 俊明 せき としあき/Toshiaki Seki
嬭恋郷土資料館・館長

1963年 群馬県中条町生まれ
國學院大学大学院文学研究科博士課程後期修了
日本考古学・博物館学 博士(歴史学)
群馬県公立小中学校教諭、(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団を経て、2019年より現職。東京農業大学非常勤講師、群馬大学非常勤講師を兼務。
著書に『浅間山大噴火の爪痕-天明三年浅間災害遺跡』(新泉社、2010年)、『災害を語り継ぐ』(雄山閣、2018年)、共著に『1783天明泥流の記録』(みやま文庫、2016年)など。
内閣府中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」小委員会委員(2004~05年度)、第30回石川薫記念地域文化賞・研究賞受賞(2022年)など。

青山 雅史 あおやま まさふみ/Masafumi Aoyama
群馬大学共同教育学部・教授

1973年 東京都大田区生まれ
東京都立大学大学院理学研究科博士課程修了
自然地理学・地形学 博士(理学)
(一財)日本地図センター研究員、群馬大学教育学部准教授を経て、2023年より現職。
論文に「2011年東北地方太平洋沖地震による利根川下流低地の液状化被害発生地点の地形条件と土地履歴」(地理学評論、2014年)、「赤城山西麓・南麓における1947年カスリーン台風災害碑の分布と特徴」(えりあくんま、2020年)、「災害碑からみた過去の自然災害」(考古学ジャーナル、2020年)、「群馬県南部における雹霜害碑とその建立経緯の検討」(群馬大学共同教育学部紀要人文・社会科学編、2022年)など。

参加申し込み方法(事前予約が必要です)

定員 300名

次の①・②・③のいずれかの方法で、2024(令和6)年1月25日(木)までに申し込みください。定員になり次第締め切りとさせていただきます。

① インターネット〈推奨〉

大学ホームページまたは右記QRコードから参加申し込みフォームにアクセスし、氏名・住所・メールアドレス等を入力して参加者登録を行ってください。



② メール〈推奨〉

下記メールアドレス宛に「第44回群馬学連続シンポジウムに参加希望」、「氏名」、「住所」、「電話番号」を明記して送信してください。
E-mail: gunmagaku-center21@mail.gpwu.ac.jp (群馬県立女子大学事務局連携推進係あて)

③ 電話

「氏名」、「住所」、「電話番号」を係員にお伝えください。
受付時間 平日9:00から17:00まで 電話番号 0270-65-8511(大学代表)

参加特典!

本シンポジウムの記録集となる地域学ブックレット「群馬の歴史と地域遺産VOL.14『自然災害伝承碑は警告する(シリーズ・群馬の災害文化Ⅰ)』(2024年度刊行予定)を贈呈します。
*配布方法は別途ご案内します。

書籍展示販売

会場にて、出演者著書、関連書籍の展示販売を行います。
協力: 戸田書店様名店

イベントメールリストに登録を!

インターネット、またはメールでお申し込みをされると、群馬学センターイベントメールリストに登録され、群馬県立女子大学や群馬学センター、または後援・協賛団体等が主催する講演会・シンポジウムなどの情報をいち早く受け取ることができます。この機会にぜひ、群馬学センターイベントメールリストにご登録ください。

お問い合わせ

群馬県立女子大学事務局連携推進係
〒370-1193群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1

TEL/0270-65-8511(代表) FAX/0270-65-9538
E-mail/gunmagaku-center21@mail.gpwu.ac.jp
WEB/https://www.gpwu.ac.jp/

